主日の福音 2026/1/11(No.1394)

主の洗礼（マタイ 3:13-17）

イエスは正しいことをすべて行われた

特別な趣味というわけではないのですが、「落語家」は「話をするのが仕事」なので、興味があります。皆さんのほうが詳しいかもしれませんが、私は「三代目三遊亭圓歌」という落語家の「中沢家の人々」という落語が大好きで、昔で言う「テープが擦り切れるくらい」聞きました。同じ場面なのに毎度笑ってしまいます。それと同時に、「話を聞いてもらうために、どんなに苦労していることだろうか」と想像しながら聞きます。

皆さんも、中田神父の説教を３年聞いています。もう飽きたでしょうか。それとも、まだ聞いていたいでしょうか。今年還暦なので、さすがに同じ話が３年のうち何度かあったでしょう。特にお葬式の説教は、できるだけ同じ話をしないように心がけてはいますが、それでも似たような話を聞くこともあったでしょう。「またこの話か」と感じたでしょうか。それとも二度三度聞いても、何か新しさがあるでしょうか。

本日、「主の洗礼」の祝日です。イエス様が洗礼者ヨハネから洗礼を受けます。洗礼者ヨハネはためらいます。「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。」（3・14）しかし、イエス様は洗礼者ヨハネが正しいことを行っているのだと証明します。

「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」（3・15）「我々にとって」と言っているのが目に留まりました。誰のことを指して「我々」と言っているのでしょうか。解説では、二通りの考えがあるそうです。一つは、民に対して、「イエスと洗礼者ヨハネ」のことを言っているという考え方。もう一つは、イエスと洗礼者ヨハネの他に、「民」も含めて「我々」と言っているという考え方です。

その同じ解説書では、あとの解釈「イエスと洗礼者ヨハネの他に、民も含めて『我々』と言っている」と取る方が自然だと書かれていましたが、先の解釈が私には響いたので、今年の説教では先の解釈を採用したいと思います。

最初の解釈に従うと、「イエスと洗礼者ヨハネ」が「我々」ということになります。そのことと関連して、「悔い改めの洗礼を受けることは、我々にふさわしいことです」と言わず、「正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです」と言っていることも何か含みがあるように思います。

思うに、イエス様が「洗礼」と言わず「正しいこと」とだけ言ったのは、先を見越してのことではないでしょうか。洗礼者ヨハネは、イエス様の弟子になったわけでもなく、イエス様が授ける洗礼を受けに行ったわけでもありません。しかし最後には、イエス様への信仰を持ちつつ、ヘロデによって殺害されてしまいました。これは、殉教によってイ

エスの洗礼を受けたと考えることができます。そして、前日の土曜日の朗読を引用すれば、「あの方は栄え、わたしは衰えなければならない」との言葉を完全なものとしたわけです。

イエス様も、正しいことをすべて行いました。最後に十字架にかかって血を流されたその時まで、正しいことをすべて行いました。だから、目の前の悔い改めの洗礼だけでなく、もっとずっと先を見越して、「正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです」と言ったのではないでしょうか。

イエス様は、「正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです」とおっしゃいます。私たちはこの言葉に注意しなければなりません。「正しいことをすべて行う」その決意は整っているでしょうか。特に堅信組の皆さんと堅信を受ける大人の皆さん、「正しいことをすべて行う」決意は整っているでしょうか。

今のところ、堅信を受ける皆さんにとって「正しいこと」とは、説教のあとに唱えている信仰宣言を自分の言葉で言い表せること、天主の十戒と教会の五つの掟を守ること、七つの秘跡に親しむこと。こういうことでしょう。「正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」これらを引き受ける決意が整っているなら、あなたもイエス様と同じく「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」です。

最後に、２月２日に迎える「主の奉献」について付け加えたいと思います。主の降誕から 40 日を迎える日です。このミサの中で皆さんが持ち寄るローソクの祝福を行います。祝福されたローソクを持ち帰り、家庭祭壇でローソクを灯して祈りをします。家庭祭壇が無い、ローソクを用いない。そういう家庭もぜひご検討願いたいと思います。もちろん安全に注意して、ということです。不安な方は遠慮して結構です。

この日のミサでローソクが祝福されるのは（インターネットの受け売りになりますが）、キリストの光を現すローソクの火を灯して世の暗闇を打ち払い、私たち自身も光となることを願う意味合いがあります。家庭祭壇でローソクを灯す時、私たちが世にあって「光」となり、堅信を受ける人たちと同様、「正しいことをすべて行う、光の子として歩む決意」を祈りのたびに思いましょう。

私たちの家庭祭壇に、ローソクはいつ点るでしょうか。正しいことをすべて行い、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声に私たちもあずかれるよう、ミサの中で願っていきましょう。

年間第 2 主日(ヨハネ 1:29-34)